

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104249		
法人名	株式会社MURO		
事業所名(ユニット名)	グループホーム太陽のおうち いこいユニット		
所在地	和歌山県和歌山市山口西385-1		
自己評価作成日	平成26年9月5日	評価結果市町村受理日	平成26年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には山や田んぼがあり、窓をのぞいただけで季節を感じる事ができ、ゆったりと穏やかに自由にその人らしく過ごしている。ご家族様の面会も多く、ご家族様同士、他のご家族様と入居者さまが仲良くされている。地域の幼稚園児達がクリスマスにされ触れ合っています。入居者様とはゆったりと過ごすように心掛けています。毎月、医療、介護、認知症の勉強会を重ねており、医療機関との円滑な連携に繋がっている。

事業所は田園風景が広がる地域にあり四季折々の季節が感じられる。代表者はじめ職員にも医療現場の経験を持つ職員が在籍しており、利用者も家族も安心して過ごしている。またその経験を活かし重度化や終末期のケアにも取り組んでおり、最期までその人らしく、他の利用者と一緒に生活が送れるように様々な工夫をし支援している。職員は利用者へ「穏やか」で「安心した」日々を過ごしてもらいたいと願っており利用者の生活歴や状態をよく理解し常に予測ケアをしている。また医療、介護の研修を年間を通して計画し内部、外部の研修に参加しスキルアップできるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を共有しており、理念に基づいた支援をおこなっている。	事業所の理念を各ユニットに掲げている。また理念の具体化のためユニットごとの理念を職員が考え毎年その達成度を確認するなど職員間で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行った時、挨拶をしたり、話をしたりしている。地域の方も気にかけてくれており、入居者様又は他の高齢者が非地理で歩いていると電話で連絡をしてくれている。	散歩に出掛けた際には地域の方と挨拶を交わしたり、利用者が一人で出かけたときには地域の方達が知らせてくれる。また幼稚園児や地域の方たちの慰問、事業所の行事に地域の方が参加されるなど相互交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に正しい認知症の理解を求め、機会の都度、地域で安心して暮らせるよう認知症の話をしたり相談に来てもらえるよう呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度実施している。施設での取り組み、行事などの報告をお行っている。自治会長、地域包括センターの方々から地域の様子を聞き、地域の一員として参加できるよう取り組んでいる。	運営推進会議は2か月に一度開催され、代表者、包括支援センター職員、家族の代表者などが参加している。事業所からは取り組みや利用者の様子、包括支援センターからは地域の様子等の報告があり、出席者からの意見、要望等を話し合っている。また利用者はお菓子やお茶の接待をして関わっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携を密にとり、市と協力関係に努めている。	包括支援センター職員が運営推進会議に参加し連携を図っている。医療連携については事業所を研修の場として提供し、代表者、医師、福祉関係者、包括支援センターが参加し協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については正しく理解している。施設内での勉強会、施設外での研修にも参加している。玄関は施錠しておらず、スタッフの見守り、付き添いで自由に生活している。	職員は外部及び内部研修に参加し身体拘束について正しく理解している。日中、玄関は施錠しておらず、自由に出入りできる環境にある。またスピーチロックに関しても理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、施設外の研修で周知徹底を努めている。日々のケアの中で、虐待につながる言葉になっていないか等スタッフ間で注意出来るように共通認識をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、キーパーソンの納得にいくまで話し合いをしている。どのような質問にもお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、イベント、その他運営推進会議等の機会を設けては、話しやすい環境をつくっている。それらは、運営に反映できるように取り組んでいる。	家族の訪問が多く、その場で意見や要望を聞いている。職員は家族や利用者にとって意見等出しにくい場合があることを十分に理解しており、常に話しやすい環境作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と主任等が毎月会議を実施し、代表者より運営等の状況報告を受けたり、種にがスタッフの代表となりスタッフの意見報告をしている。	管理者会議、全体会議で主任から職員の意見や要望を伝えたり、代表者への稟議書の提出を通して意見を出している。また、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職員のケア等の状況を把握しており、的確に指示を受けられる。入居者様の状態も把握している為、状態が良くなった時は一緒に喜んでくれるのでやりがいがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、全国大会の参加、発表等を積極的に勧めてくれる。個々のスタッフの力量を把握されているので、アドバイス、研修を進めてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県実践研修の実習生、県立看護大学の実習生、県開設者研修の実習等を受け入れている。県リーダー研修では、リーダー同士がお互いに交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後にご本人、ご家族様と十分に時間を使って関わり、聞き出せるような関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの要望をしっかり聞き、支援することによる変化などを定期的に報告し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様からの要望を聞き、ご本人にとって何を一番優先すべきかを考えケアしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、できないこと、得意、不得意な事を把握し、一緒に出来るように支援している。人生の先輩にいろんなことを教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時は、ご家族様と十分な話し合いをし、要望を聞いている。どのよな支援をしているのか理解していただけているので協力が得られる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続の支援は継続して行っているが、ご本人が忘れる事が多いため、スタッフが間に入り支援している。	家族や友人、知人の面会が多く、家族同伴で食事や墓参り、美容室に出掛けたりしている。また電話や手紙の連絡を取り持つなど馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人、気の合わない人の愛称を把握しながらその人の状態に合わせて、時にはスタッフが介入し、関わりを持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日知用に応じ、継続して関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報を密にとり、なおかつ、日々のケアの中で気付いたり、感じ取っている。コミュニケーションだけでは、把握は困難である。	センター方式を活用し利用者の人生を知り、日々の生活の気づきから希望や意向の把握に努めている。またそれらを職員間で話し合い検討し利用者本人の視点に立って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に徹底した情報を収集すると共に、ご本人とのコミュニケーション。疑問点は再度ご家族様から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、コミュニケーションにより現状の把握をし、スタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態に変化があった時は、スタッフ間ですぐに話し合いを持ち、ケアプランの変更を行い、現状に合わせたケアを提供している。	利用者、家族の意向に沿い、主治医や代表者、職員の意見やアイデアを反映し、介護計画を作成している。また状態の変化があった時には職員間で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの記録と、申し送り等でスタッフ間の情報共有を行っている。気づきや工夫について申し送りをし、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者のニーズに対応し実践している。ニーズを伝えやすい関係作りを積極的に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を積極的に取り入れ、その人にあった暮らしの支援を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人ご家族の希望により異なる。往診時には小さな変化、状態の報告をしている。適切なアドバイスを受けている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。事業所の協力医療機関には定期的に往診に来て貰っている。また緊急時にも往診してくれるなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日常変化や観察で気付いて事を報告し、訪問時にはアドバイスを受けている。施設には看護職もいるので、的確な報告が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換は積極的に行い、ご家族様との情報交換または相談に乗っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に応じて、ご家族様に代表とかかりつけ医から説明を行う(重度化、看とり指針)。今どのような状態の時期なのか等を話し、ご家族様の希望も聞きチームで支援をしている。	事業所は看取りのケアができる体制をとっており、経験もある。入居時に重度化や終末期のケアについて説明を行っている。またそのような状態になった時には本人、家族の意向を踏まえ、主治医、看護師、職員が連携しケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施。スタッフで状況に合わせた訓練をし確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年2回日中と夜間を想定して訓練を実施。入居者の状態変化については、避難方法をスタッフ間で確認している。地区の協力体制あり。2週間の備蓄も行っている。	消防立会いのもと利用者と一緒に日中、夜間を想定して訓練を行っている。マニュアルを作成し、緊急時の連絡体制も整っている。備蓄は2週間分確保しており、災害時には避難場所としての提供を予定する等、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	祖の人が生きてきた歴史を知り、人格を尊重し、その人に合った声かけや、対応を実施している。	呼称については入居時に本人や家族に確認し本人が心地よいとする呼称を用いている。またその人の生活歴を知り、誇りやプライバシーを損ねないように一人ひとりに合った言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような場面でも、自己決定できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入居者の視点に立ち、個々のペース、希望に合わせたケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の状況に合わせて洋服を一緒に選んだり、顔そり、カットなど身だしなみがしっかりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物を聞き、メニューに取り入れている。季節感をだす献立に心掛けており、調理、盛り付け等を一緒に行っている。	調理やテーブル拭き、食器洗い等利用者各々ができる事を行っている。献立には旬の物を取り入れるようにしており、利用者と一緒に考え、買い物に出掛けている。また職員は利用者と一緒にテーブルを囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックを行い、食事量、水分量の把握をしている。状態に応じて食事水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた清潔保持を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをスタッフゼ委員が把握している。個々の排泄パターンに合わせtw声かけを実施している。申し送りでパターンの変化を共有し、時間調整をしている。	24時間シートを利用し利用者の排泄のパターンを全職員が把握し、トイレで排泄ができるように声掛けを行っている。また体調の変化等で排泄のパターンが変わったときも職員間で共有しトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターン質、量等をスタッフ間で共有しており、繊維の多い食材をメニューに取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が毎日入浴している。希望の時間や、タイミングに合わせて声かけや、個々の入浴の好みに配慮して支援している。	利用者全員が毎日夕方に入浴をしている。また入浴を拒む利用者には職員を代えたり、時間をおいて声掛けをしたり入浴剤をいれるなど創意工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じ、昼寝の支援や就寝時間を把握し、声かけを行っている。個々に合わせ、居室内の湿度、温度調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に飲んでいる薬は何の薬か把握し副作用、対処方法についても周知しており適切な指示で服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好き嫌いを把握し、献立を変化させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初午には餅拾いに出かけ、花見には地域の神社に出かけ、納涼際には地域の方々と触れ合う機会を作っている。	毎日散歩や買い物に出掛けたり、庭先に出て日光浴をしている。行事では地域の神社にお花見や初午の餅拾いに出かけるなど気分転換を図っている。また家族と一緒に外食やコンサートに出かけるなど家族の協力を得ながら積極的に外出の支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、ご家族と相談の上少額のお金を持っている人もいます。(本人安心)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、お礼状など時期に応じて書けるように支援している。電話も話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光と風を常に意識している。湿度温度計を設置し、快適に過ごせるよう配慮している。大きなカレンダー新聞等で日を分かって頂けるよう支援。季節に応じた花木で季節感を感じて頂き、食事にも旬の食材を使用している。	共用の空間は採光、照明、室温、風通しなどが十分に配慮されている。玄関や居間には季節の花や絵画が飾られ、ソファやピアノも設置されており生活感や季節感を感じとることができる。また畳みの空間もあり利用者が好む場所で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内、ソファ、椅子を配置し、入居者様同士で話せたり、スタッフと話したり、玄関の外、ウッドデッキにもテーブル、椅子を配置し祖との景色を見ながら会話を楽しむ工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様と相談し、今まで過ごしていた環境を再現できるようにしている。馴染みの物、大切だったものを持ってきていただけるようご家族さんに伝えている。	使い慣れたタンスやソファ、家族の写真、利用者の手作りの作品などが持ち込まれている。また利用者が部屋の中で移動し易いようにタンスや椅子などを上手く配置しており居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは、個々の出来る事を把握し状況に応じて、声かけ、見守りをし自立支援を心掛けている。		